

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101870		
法人名	医療法人社団協栄会		
事業所名	グループホーム しゃらく		
所在地 (電話番号)	茨城県水戸市中丸604-1 (電話)029-257-2565		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年6月6日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(平成19年5月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	17人, 非常勤4人, 常勤換算8人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	2階～3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(500,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(1,500,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:5年間 毎月25,000円償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月当たり 40,000円			

(4)利用者の概要

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名	
要介護1	2名	要介護2	5名			
要介護3	7名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	名			
年齢	平均	84歳	最低	78歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団協栄会 大久保病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地であるが緑の木々に囲まれた公園のようなホームであるため、地域の子供たちが自由に走り回り、それを見守る母親たちは井戸端会議をしている光景も見られる。そんな環境の下、挨拶を積極的にすることにより、地域に密着しつつある。管理者の思いが職員に浸透し、一体となってケアの質の向上に取り組んでいる。ホーム主催の夏祭りは家族をふくめ、地域住民にも開放し盛大に開催されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価でケアプランについて指摘があり、ケアプランの大切さを職員との話し合いを持ってケアマネを配置した。現場の職員からの意見を基にケアプランを作成している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己、外部評価の意義を管理者は職員に合った説明をしながら、共有している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政、家族、管理者、職員のメンバーで1回目の会議が開催された。第1回なのでホームの状況説明であるが、今後は地域住民、民生委員の参加を呼びかけ、内容を充実したいとの意向であるので期待がもてる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への状況報告は毎月行っている。意見、要望、不安等は電話連絡時や面会時に必ず聞くようにしている。意見の言いにくい家族に対しては家族会の場や、アンケートにより吸い上げる予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携はスムーズで、保育園の運動会や敬老会への参加、ホーム主催の夏祭りの参加呼びかけなど地域交流が盛んである。付近のスーパー、飲食店の理解もあり災害時は避難場所を提供するとの申し出もある。今後ホームとして自治会への加入も検討し、更なる地域との連携を行いたいとの管理者の思いが通じることを期待する。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人に挨拶をしよう」を地域密着型サービスの理念として、実行している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に話し合いのほか、毎月開催する会議の時にテストを行ってきたこともあり、職員は常に意識をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在は自治会には加入していないが、毎日挨拶を交わしてきた結果、保育園の運動会や敬老会に招待されている。ホーム主催の夏祭りに100人単位の地域住民の参加がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、職員会議で自己評価を実施し管理者と職員と共有していることが、ヒヤリングから十分に読み取れる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の参加が難しい中、第1回運営推進会議を行政、利用者家族、管理者、職員で開催し、サービス向上に取り組んでいる。	○	地域住民と交わす挨拶でだんだんと密着したホームになりつつあり、今後は自治会長、民生委員を含めたメンバーでの会議が開催されるよう、更なる働きかけを期待する。

茨城県 グループホームしゃらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の連携は難しい面もあるが、小学生、高校生の体験学習、大学生の実習の場として提供している。中学生はソーラン節踊りの発表の場として、ボランティアを受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の金銭報告、陽だまり通信のほか、受診時の内容報告は付き添った職員が直接家族に行き、生活状況については必要に応じ連絡をしている。面会時には必ず声かけをしている。陽だまり通信の写真掲載に関しては、利用者、家族の事前了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。過去に投書(意見)が入ったことはないが、面会時等に意見が出た場合は、職員会議を開催し問題解決に努めている。		家族会を年3回開催し家族会の会長が前向きな方なので、意見の言い出しにくい家族に対して家族だけの話し合いの場の提供、また無記名によるアンケートの実施等、工夫されては如何でしょうか？
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去離職もあったが、管理者の強いリーダーシップが職員に浸透しそれに感銘をうけ同じ思いでケアに努めているので、今は離職はない。グループ内の移動は行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の老健の勉強会、外部研修の参加費は仕事の一環としての参加なので会社負担である。段階に応じた研修は職員のレベルに合わせて参加できるように支援している。受講後は会議にて報告し、記録に残し全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入のほか、職員の交換交流を行っている。管理者同士の交流も行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、利用者との面談の上、デイサービスの利用や体験入居から利用者が職員、場の雰囲気等に徐々に馴染むように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者から学習するという管理者の姿勢が職員に浸透しているので、職員が自然と利用者に対し(ありがとう、ごめんね)という言葉が出ていて、短い時間ではあったが非常に良い雰囲気を評価員も共有できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を出来るだけ聞くようにしている。問いかけに関し意思表示が困難な利用者には、色々な選択肢を投げかけ、表情から利用者の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の中での気づき、課題をユニット会議で検討したうえで、ケアマネが介護計画を作成し、家族へケアプランを送付し同意を得ている。目標、評価もきちんと記載している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しに関しては短期3ヶ月、長期6ヶ月の期間に応じてカンファレンスを開催している。状況変化が生じた場合は時期等の変更が行われ、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内の老健、デイサービスを状況に応じ柔軟に利用し、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の大久保病院に受診している。受診には職員が付き添い、家族に結果報告し共有理解をしている。夜勤帯は24時間医師、看護師との連絡がとれ、指示を受けることができるので不安は少ないとの事である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に1人だけのターミナルの経験はあるが、取り決めはしていない。	○	管理者、職員の中でも看取りを考えているので、家族、利用者の要望をきき、今後の変化に備えて、段階的合意の必要性が出てくると思うので、マニュアル、チーム体制の準備に取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議においてケースバイケースの言葉や対応の仕方について話し合い、確認をしている。家族に利用者の話をする時は居室にて行い、個人情報保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿ってその人らしく暮らしが過ごせるように職員の配置をしている。外出の希望は毎日あるが、その都度出かけている。評価当日も利用者の一人が『先日購入してきたのだ』と、洋服をうれしそうな表情で私たちに見せてくれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食は老健から材料が届くが、その日によって利用者の要望で変更になることもあり、食べたいものを作り、配膳、そして職員との会話を楽しみながらの食事風景がみれた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は利用者の希望に沿って支援をしているので夜勤帯入浴となるときもある。入浴拒否に対しては無理強いほしませんが入浴剤を入れるなどの工夫をし週2回は入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の職歴、生活歴を把握し、草木の手入れ、暖簾作り、畑仕事のほか、日々の生活の洗濯干し、たたみ、掃除、薬の名前書きなど継続して行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きつけの店、同窓会、友人の家庭訪問などの他、自分で使用するものは、自分で購入するように外出している。天気の良い日は全員で毎日のように出かけ、家族が面会に来て会えないときもあったりするが、家族にも喜んでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーやチャイムもなく常に開放している。利用者の様子が違うときは職員が目配りでその時々にあった支援をしている。外出してしまう利用者に対し地域の理解もあり、連絡をうけることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、6月と9月に避難訓練を実施している。夜間想定や消火器の使い方の訓練内容、方法もきちんと記録に残している。近隣の飲食店に災害時に避難場所の提供の申し出を受けている。備品は飲料水、水にとける乾パンを用意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に食事、水分摂取量を記録している。老健の栄養士により栄養バランスは確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間の中に畳のコーナー、ソファ、食卓等が設置され利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。浴室は身体機能に合わせ2箇所ある。懐かしい家具、ミシン、電話、テレビの配置により、利用者がリラックスして生活している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、サイドテーブルの配置、カレンダー、時計の設置の他、利用者の趣味である沢山の草花が配置され、利用者や家族が居心地よく過ごせるようになっている。		